



(五) 五郎ちゃんとケーキ

五郎ちゃんはおかしが大好きです。おまんじゅうも好きです。おだんごも好きです。おせんべいも好きです。ようかんも好きです。おケーキも好きです。ビスケットも好きです。

五郎ちゃんにはみね子ちゃんという妹がいます。おやつするとき、おかしが二つあると、

五郎ちゃんはどっちが大きいかよく見て、大きいほうを取ります。そして、小さいほうをみね子ちゃんにわたします。大きいそぎで食べてしまつてから、みね子ちゃんに、

「少しちょうだい。」

と言うこともあります。みね子ちゃんのはしつこをすこーしくれます。みね子ちゃんがくれないときは、

「おんぶしてあげるからちょうだい。」とか、「あそんであげるからちょうだい。」とか、「お話してあげるからちょうだい。」

と言って、わけてもらいます。みね子ちゃんがどうしてもくれないときは、おかあさんのそばへ行って、

「おかあさん、おかしもつとちょうだい。」

と言います。おかあさんは、

「じゃ、すこーしね。」

と言ってわけてくださいます。おかあさんがくたざらないときは、

「おかしがほしい、おかしがほしい。」

と大声を出し、それでももらえないと、

「ウーン、ウーン。」

と泣きだします。そうするとおかあさんは

「こまった人ねえ。」

と言って、少しくださいます。

あるとき、五郎ちゃんとみね子ちゃんはおかあさんにつれられて、よそのおうちへ行きました。

おいしそうなケーキが出ました。そのうちのおばさんが、みね子ちゃんにケーキを一つ取ってくださいました。それから五郎ちゃんにも取ってくださいましたが、それはみね子ちゃんのよりも少し小さいケーキでした。五郎ちゃんはそれをうけとらないで、おかあさんのほうを見て、

「もつと大きいのがほしい。」

と言いました。

「そんなこと言っておかしいわ。さ、それをいただきます。」

五郎ちゃんは、

「いやだー、いやだー、もつと大きいのがほしいよう、

ウーン、ウーン。」

と泣きだしました。

おばさんは、

「そんなわがままな子にはおかしをあげるのはいけません。」
と言って、ケーキをしまつてしまいました。

五郎ちゃんはまたウーン、ウーンと泣きました。それからもっと大きな声で、ウワー、ウワーと泣きました。しかし、いくら大きな声で泣いても、ケーキはもらえませんでした。

(六) まほうつかいのおじいさん

カーチカーチ カチカチカチ

カーチカーチ カチカチカチ

ながーいひげのおじいさんが石ころを二つたたきながら、お山をのぼってきました。こどもが六人うしろからついてきます。

カーチカーチ カチカチカチ

カーチカーチ カチカチカチ

おじいさんはお山の上のお池のそばへ来ました。こどもたちがおじいさんのまわりにあつまりました。

カーチカーチ カチカチカチ

カーチカーチ カチカチカチ

「さあ、これからおじいさんがおもしろいことを始めるよ。おじいさんはまほうつかいだ。なんでもすきなものにしてあげる。」

ひとりのこどもが言いました。

「ぼくは鳥になりたいな。」

「鳥は何がいいかね。」

「すずめ！」

「よーし。」

おじいさんはそのこどもを自分の前に立たすと、おまじないをしました。

「チンチンチャランチャラン、ポボンポボンポンのピー。」

こどもはすずめになりました。

「チンチンチャランチャラン、ポボンポボンポンのピー。」

とないたと思ったら、スーと遠くへ飛んでいってしまいました。

「さあ、おつぎは何になりたいかね。」

「ぼくはおさかなになりたいな。」

「さかなは何がいいかね。」

「こい！」

「よーし。」

おじいさんはそのこどもを自分の前に立たすと、おまじないをしました。

「チンチンチャランチャラン、ポボンポボンポンのピー。」

こどもはこいになりました。そして、ドボンとお池の中に飛びこんで、スー、スーとお池の底のほうへ泳いでいきました。

「さあ、おつぎは何になりたいかね。」

「ぼくは虫になりたいな。」

「虫は何がいいかね。」

「すいっちょ！」

「よーし。」

おじいさんはそのこどもを自分の前に立たすと、おまじないをしました。

「よーし。」

「チチンチチンチャランチャラン、ポボンポボンポボンポンのビー。」
「こどもはすいっちょよになりました。」

「ピョンピョンピョンと飛んだと思うと、草のあいだにはいつて
しまいました。そして、

「スーイッチョ、スーイッチョ。」

となぎだしました。

「さあ、おつぎは何になりたいかね。」

「ぼくはけものになりたいな。」

「けものは何がいいかね。」

「ライオン！」

「こわいねえ。」

「じゃあ、馬！」

「よし。」

「おじいさんはそのこどもを自分の前に立たすと、おまじないを
しました。」

「チチンチチンチャランチャラン、ポボンポボンポボンポンのビー。」

「こどもは馬になりました。そして、
「ピヒンピヒン。」

となきながらお山をかけおりました。

「さあ、おつぎは何になりたいかね。」

「わたしはにんげんでいいわ。」

「にんげんは何がいいかね。」

「あかちゃん！」

「よし。」

「おじいさんはそのこどもを自分の前に立たすと、おまじないを
しました。」

「チチンチチンチャランチャラン、ポボンポボンポボンポンのビー。」

「こどもはあかちゃんになりました。そして、

「オギヤーオギヤー、オギヤーオギヤー。」

と泣きだしました。いくらたっても泣きやめません。

「こいつはこまった。だれか助けてくれないかな。さあ、おつぎ
は何になりたいかね。」

「わたしはおかあさんになるわ。」

「よし。」

「おじいさんはそのこどもを自分の前に立たすと、おまじないを
しました。」

「チチンチチンチャランチャラン、ポボンポボンポボンポンのビー。」

「こどもはおかあさんになりました。そして、あかちゃんをだき
あげました。」

「おい、よしよし、よしよし。泣くんじゃないよ、いい子だからね。」

「おかあさんはあかちゃんをだいて、山をおりていきました。そ
のうしろからおじいさんが、石ころを二つたたきながら山をおり
ました。」

カーチカーチ カチカチカチ

カーチカーチ カチカチカチ

(おわり)